

新入荷商品のご紹介



特集でも紹介したおび弘さんの手織りの本袋帯です。礼装にもカジュアルにも幅広くお使いいただけます。

おび弘 本袋帯（久遠の楽器）
649000円



絞りの不規則な模様が飽きの来ないデザインに仕上げられています。大振り、和装だけでなく洋装の普段使いにも重宝し、大容量なので実用性が抜群です。

和想庵 バッグ
52800円



鎌倉彫 下駄

16060円

数が少なくなってきた鎌倉彫の台に麻のさわやかな鼻緒の組み合わせが何とも新鮮にうつります。今年の夏は是非とも夏祭りや花火に！



印伝 財布

11000円

黒地に黒漆で印伝の素材でもある鹿革の鹿を表現したビジネスシーンでもおしゃれに使える新シーズンのブレゼントにもピッタリの逸品です。

趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2024年4月号

ごあいさつ



桜の季節になりました。毎年毎年繰り返されるこの季節ですが、相変わらず心待ちにしている、桜が咲くとウキウキしてしまうのはなぜなのでしょう？最近では観光地の桜もいいですが、散歩しながら人知れず咲いている桜を探しては一人でのしんでいます。

5月の連休

毎週火曜日・水曜日定休

※まだまだ水曜日休みが定着しておらず、ご迷惑をおかけしております。

特集 おび弘本袋帯（久遠の楽器）の魅力



滋賀県の北部にあるおび弘さんの工房を訪れてからもう5年近くたっていますが、それから、着物のものづくりの現場では技術の継承の難しくなってきたものが増えてきました。先日、ある問屋さんのご案内にあった帯の柄にひとめぼれしてしまい、手に入れてきたのが、おび弘さんの帯でした。この帯は本袋帯という、たいへん難しい織り方をしています。通常袋帯は表地と裏地を別に織り、後で両端をかがり、一本の帯に仕上げ

ていくのですが、表地と裏地がつながっている本袋帯の場合、両面を同時に織っていくということですが、何度説明していただいても、どうやって織っているのか私には理解できないのでうまく説明できず申し訳ないのですが、かなり複雑な織り方を理解して織っていくのは、かなりの経験と熟練な技が必要なことは想像できます。そして、この帯は正倉院に収められている『檜和琴』という楽器の装飾をモチーフにしており、知性を兼ね備えながらもおしゃれさを犠牲にせず、モダンに織で表現しているのがこの帯の特徴です。お太鼓柄ですが、礼装はもちろんのこと、コーディネート次第では紬などにも合わせることもでき、河内屋がご紹介する商品の中でも、何年に一度出会えるかどうかの、珠玉の逸品です。商品として、入荷してきていますが、本音をいうとあまり手放したくないような思い入れのあるお品です。是非ともいちど皆様にご覧になっていただきたいと思っていますので、もし店頭飾っていない場合はお声がけください。

SNSで情報発信中！

フェイスブック



kawachiya888

インスタグラム



kachuan888



呉服の河内屋

〒444-0521

愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子62

<https://www.gofuku-kawachiya.co.jp>

メール info@gofuku-kawachiya.co.jp

tel 0563-35-0039 fax 0563-35-3539

かわちやの新着商品や産地のことものづくりの話、竹次郎カフェの開催日など SNS でも発信しています。

